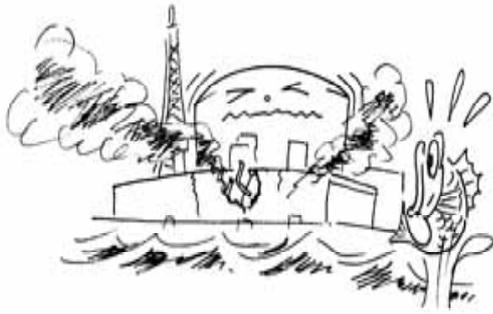


関西電力は、なぜ、隠し続けるのか？

野坂断層帯の詳しいデータを公表し、

福井と大阪で原発耐震性の公開討論会を開け！

10・26反原子力デーを各地で闘おう



10月26日「地震と原発」学習会

敦賀半島の周りは活断層だらけ
活断層の上に美浜原発、敦賀原発、
そして「もんじゅ」が
地震の空白地帯に建っている原発を
直下地震が襲えば

10月27日(月)関電へ申し入れ(予定)

柏崎刈羽原発を再稼働の動きは許せません

日本に55基の原発が稼働していますが、
原発の周りで、地震の活動が活発化していま
す。そのため、多くの人々が原発の耐震性につ
いて、不安を持っています。昨年7月、新潟
県中越沖地震(M6.8)によって、柏崎刈羽原
発が緊急停止しました。7基全て、建設時の設
計で考えていた地震動をはるかに超えた力に
襲われ、1年以上も発電できないままなので
す。柏崎刈羽原発の再稼働の動きなどともな
ないことです。廃炉にしなければなりません。
原発の中心部である原子炉部分は、この地震
によって、変形やひずみなど全く起こってい
ないという保証はあるのでしょうか。再稼働を

放射能流出という深刻な事故を起こしてから
は、遅いのです。

関西電力は、誠意をもって「原発の耐震性
について」 公開討論会を開くべき！

私たちは、関西電力に対して、「地震と原発」
問題で「ぜひ福井と大阪で公開討論会を開い
て欲しい！」と、お願いしてきました。



しかし、関電は、
「耐震指針に基づ
いてバックチェク
をして中間報告を
出し、国の審査を
受けている。」とし
て、私たちの公開

討論会の求めには応じようとしていません。私たちは、引き続き、公開討論会を開くよう、繰り返し要求していきます。

関電にバックチェック中間報告の妥当性を再度問いただすも、回答を回避！

私たちは、美浜原発周辺の野坂断層帯と海域B断層の「連動」についての詳しいデータを求めました。中間報告の妥当性を客観的に評価するには、より詳しいデータを即刻公開し、誰でもが、なるほどと納得できるものでなければなりません。しかし、残念ながら、まともな応えは未だにかえってきません。

大飯、高浜原発に関しては、熊川断層の西方への連続性について、FO-A断層とFO-B断層の連続性について、原発敷地近傍リニアメントが活断層ではないと判断したことについてなど、詳しく説明を求めましたが、これも審議会での議論待ちで、広報には回答しようという気がないのです。

バックチェック報告の徹底した批判を！

女川原発、志賀原発、柏崎刈羽原発と、ここ数年の地震で原発耐震設計の基準地震動が超えられるという異常事態が相次いでいます。しかも、地震の規模は気象庁マグニチュード6.8～7.2とありふれた規模であり、特別に大きな地

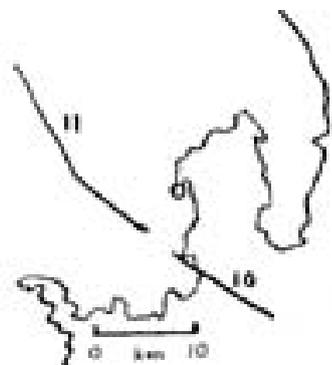
震ではありません。女川ではスラブ内地震とプレート間地震、志賀と柏崎刈羽では内陸地殻内地震でした。つまり、主要な3タイプの地震がすべて原発近くで起こり、強烈な地震動が原発を襲い、耐震設計で超えられてはならないはずの基準地震動 S_1 (最強地震)や S_2 (限界地震)があったという間に超えられてしまったのです。新指針に対するバックチェックで策定された基準地震動 S_s でも「大丈夫」とは言えません。

静岡県浜岡原発では直下で東海地震が起きて「原発震災」がもたらされる危険性が警告されています。ところが、中部電力による基準地震動 S_s は旧指針の S_2 とほとんど変わりません。しかも、 S_s の大きさを決めているのは想定東海地震ではなく、石花海(せのうみ)海盆西縁断層帯による内陸地殻内地震と仮想的東海地震(想定東海地震のアスペリティ1つを原発直下に置き替えたもの)による地震動です。つまり、旧指針の下では、これらの地震が過小評価されていたことになります。浜岡原発は、内陸地殻内地震、プレート間地震、スラブ内地震の3タイプの地震がすべて起こりうる「地震の巣」の上に建てられています。ここで地震や地震動がいかにも過小評価されているのかを知ることは非常に重要です。なぜなら、その過小評価のテクニックが他の原発でも巧みに適用されているからです。その詳しい分析は後のページをご覧ください。

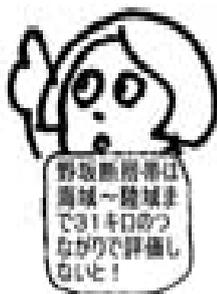
また、原発周辺にある孤立した断層については、断層の長さを最低20km、マグニチュード7以上として評価し直すべきです。

電力会社や国が想定した地震をはるかに超える地震が実際に起こる危険がますます高まってきています。バックチェック報告における地震動の過小評価を徹底して暴き、批判しましょう。

私たちは大飯・高浜・美浜原発の運転停止を求め、M7.3の直下地震に耐えられない原発は閉鎖するよう求めます。老朽原発が一層地震に弱いことは明白です。地震に耐えられない全国の原発の閉鎖を共に求めていこまよう。



美浜原発()
海底B断層(11)
野坂断層(10)



関電は、一応「連動」した場合の地震の大きさを評価したと言っていますが、なぜか、未だにデータすら公表していません。データを公表すれば、評価の矛盾が暴露されるからなのでしょうか？

今後の予定

9月28日(日) 午後1時半～4時

JCO事故を忘れない！原発いらない！市民の集い

場 所：大阪市立浪速人権文化センター

主 催： JCO事故を忘れない！市民の集い実行委員会 075-73-6121

10・26反原子力デーを全国一斉に闘おう

10月26日(日) 「地震と原発」 学習会 午後1時半～4時半

原発重大事故

冷却失敗事故

炉心溶融事故(チャイナシンドローム)

スリーマイル島2号事故

(1978.12運転開始、79.3.28事故)

反応度事故

核暴走事故(アホロ事故)

チェルノブイリ4号事故

(1983.12運転開始、86.4.26事故)

燃料取扱事故

原子炉～貯蔵プールの核燃料事故

外的立地起因事象

地震

女川(2003.5.26三陸沖M7.1

2005.8.16宮城県沖M7.4)

志賀(2007.3.25能登半島M6.9)

柏崎刈羽(2007.7.16新潟県中越沖M6.8)

飛行機の墜落



敦賀半島の周りは

活断層だらけ

活断層の上に美浜

原発、敦賀原発、

そして「もんじゅ」が

地震の空白地帯に

建っている原発を

直下地震が襲えば

主催：若狭ネット

場所：阿倍野市民学習センター
入口を入れて奥の「アトリエ」

Tel: 06-6634-7951

(あべのベルタ3階)

10月27日(月) 関電本社申し入れ(予定)

編集後記

- ・ 福田首相が、安倍前首相に引き続き、たった1年で辞職しました。国の持つ汚染米を民間の三笠フーズに払い下げ、三笠フーズは、汚染米を食用として流通させ、暴利をむさぼりました。食の安全すら守ろうともしない国の姿勢に対して、今まさに国の信頼性はがた落ちとなり、安全かどうかもわからないまま食せざるを得ない実態が浮き彫りになってきています。「食」「エネルギー」という国の根幹に関わる政策が、何らの信頼感も伝わってこないのです。
- ・ 「エネルギー」問題では、相も変わらず、原発・核燃料サイクルを進めようとしています。原発は発電時にCO₂を出さないと大宣伝をしていますが、ウランの採掘から使用済核燃料の貯蔵までを視野に入れると、大変なエネルギーと費用を使い、放射能汚染をもたらす、人と環境にやさしいとは言えません。
- ・ 福井にある高速増殖炉「もんじゅ」が、またまた来年の2月にも動かそうと画策しています。「もんじゅ」の直下に活断層が走っていることを認めながらも、運転をねらっているのです。

以前、「もんじゅ」の建設工事に携わった人から、「あのもんじゅだけは、動かしてはだめだ。」「ずさんな工事をしている」と話しておられたことを思い出します。

きよ子